

33 . 主よ。

あなたのおきての道を私に教えてください。

そうすれば、私はそれを終わりまで守りましょう。

34 . 私に悟りを与えてください。

私はあなたのみおしえを守り、心を尽くしてそれを守ります。

35 . 私に、あなたの仰せの道を踏み行かせてください。

私はその道を喜んでいきますから。

36 . 私の心をあなたのさとしに傾かせ、不正な利得に傾かないようにしてください。

37 . むなしいものを見ないように私の目をそらせ、あなたの道に私を生かしてください。

38 . あなたのことばを、あなたのしもべに果たし、あなたを恐れるようにしてください。

39 . 私が恐れているそしりを取り去ってください。

あなたのさばきはすぐれて良いからです。

40 . このとおり、私は、あなたの戒めを慕っています。

どうかあなたの義によって、私を生かしてください。

33 **Teach me, O Lord, the way of Your laws;**

I will observe them to the utmost.

34 **Give me understanding, that I may observe Your teaching**

and keep it wholeheartedly.

35 **Lead me in the path of Your commandments,**

for that is my concern.

36 **Turn my heart to Your decrees**

and not to love of gain.

37 **Avert my eyes from seeing falsehood;**

by Your ways preserve me.

38 **Fulfill Your promise to Your servant,**

which is for those who worship You.

39 **Remove the taunt that I dread,**

for Your rules are good.

40 **See, I have longed for Your precepts;**

by Your righteousness preserve me.

33 . 主よ。

あなたのおきての道を私に教えてください。

そうすれば、私はそれを終わりまで守りましょう。

rcn<sup>h</sup> Qal Impf.

watch, guard, keep, preserve

hry<sup>h</sup> Hi. impv.

1. throw, cast, 2. shoot (arrows); 3. throw water, rain;

見張り、口・秘密を、契約や法を忠誠心をもって遵守する

4. point out, shew 5. direct, teach, instruct:

bq,[e consequence, reward, end (of time) : ヤコブと関係あり。

112節(「いつまでも、終わりまでも。」)でも使われている。

詩篇 19 : 11 : 「報いは大きい」と訳される。~「その後に従うことによって報いを得られる」という意味が込められている。

主からの報いを得るように(ピリ 3 : 14), しもべは主に従いたいと願う ~ その導きを求める祈りが以下続く。

「おきて qxo : 刻み付けられたもの, 刻印されたもの・定め、制定、命令

34 . 私に悟りを与えてください。

私はあなたのみおしえを守り、心を尽くしてそれを守ります。

bl el kb. h<sup>h</sup>rmvaw<sup>h</sup> ^trAt hrCaw<sup>h</sup> y<sup>h</sup>bbh<sup>h</sup>

Qal Impf

トローラー

rcn<sup>h</sup>

!yBi<sup>h</sup>

Qal Impf

Hi. impv. understand, give(make)understanding, teach

watch, guard, keep, preserve

35 . 私に、あなたの仰せの道を踏み行かせてください。

私はその道を喜んでいきますから。

y<sup>h</sup>lcp<sup>h</sup>x' Ab-yki ^ytvomi bytnBi yk<sup>h</sup>rdh;

#pæ'

bytn<sup>h</sup>

%rD'

Hi. Impv. ( Qal : tread, march ) Hiph : tread, tread down

Qal. Pf.

path, pathway ( 敵、道などを ) 踏みつける cause to tread, lead

delight in, please

hv<sup>h</sup>cmi

「仰せ」権威ある明確な命令 commandment

36 . 私の心をあなたのさとしに傾かせ、不正な利得に傾かないようにしてください。

[cB-<sup>h</sup>la, la<sup>h</sup> ^ytv<sup>h</sup>el a, y<sup>h</sup>l<sup>h</sup>ij<sup>h</sup>;

[cB,

hj<sup>h</sup>n<sup>h</sup>

Hi. Impv. (Qal : stretch out, spread out, extend, incline, bend )

gain made by violence ( 強盗・略奪など )

Hiph : turn, incline, turn aside, hold out, (rarely stretch out, rarely spread out)

unjust gain( もっと一般的に )

turn = influence, heart:turn (away) heart (cause to apostatize), extend unto

profit (with selfish, suggestion)

向けさせる、傾斜させる、~の方へ向かう(稀に)長びかせる、延ばす

tW<sup>h</sup>[e hd'<sup>h</sup>e

確認するの意味で十戒のこと「あかしの板二枚、あかしの箱、あかしの幕屋、さとしの書」

37. むなしいものを見ないように私の目をそらせ、あなたの道に私を生かしてください。

ʁnk; ^kr'dBi aw' tAræny[er]bçh;

hyx' 道(pl.)

har'

rb;['] (Qal : pass over, through, by, pass on )

Piel.Impv.

aw' Qal.Inf.

Hiph.Impv. 通過させる、転向させる、改造する、奉献する、(火で焼くなどして)捧げる、取り除く、片付ける、(悪を)捨てる、追い払う

*emptiness, nothingness, vanity, worthlessness*

(人の救いの空しさ、主の御名を~みだりに意味なく空しく~となえる、偽預言、無価値な人間、動機)

偶像崇拜、虚栄、この世のはかない栄華、神を離れた野望などである(参照 24:4、31:6)

38. あなたのことばを、あなたのしもべに果たし、あなたを恐れるようにしてください。

^taryl.rva| ^t,rmai ^Db.[l. ~qh'

~Wj Hiph.Impv. (Qal arise, stand up, stand)

Hiph. : cause to arise, raise, set up, erect, instigate, establish, carry out

建てる、起こす、煽動する、確立する、遂行する、(誓い、契約、計画、命令を)実行する

*cause a dead man's name upon his inheritance*

haryl

*fear, terror, fear of God, reverence, piety;*

the knowledge (of God); is the beginning of wisdom and knowledge;

the instruction of , wisdom, is to hate evil, and it involves departing from evil.

神を「恐れる」態度は、信仰的知恵の土台である(箴言 1:7)。

39. 私が恐れているそしりを取り去ってください。

あなたのさばきはすぐれて良いからです。

~ybAj ^yj Pvmi yki ylrq| rva| ytPrx, rbçh;

rgj

rb;['] (Qal : pass over, through, by, pass on )

Qal.Pf.

Hiph.Impv. 通過させる、転向させる、改造する、奉献する、

(憤り、エジプトの病を) be afraid, fear (火で焼くなどして)捧げる、取り除く、片付ける、(悪を)捨てる、追い払

hPrx,

あざけり、非難、中傷、軽蔑、恥、侮辱、不名誉、

(不妊の、やもめ暮らしの、飢え、病の、儀式的な、無割礼の、敵からの負傷)

j Pvmi

「さばき」法律用語(裁判、判決、判決文、法廷、手づき、定め、決定、公正、正しさ、慣例、裁きの執行)

40. このとおり、私は、あなたの戒めを慕っています。

どうかあなたの義によって、私を生かしてください。

ʁnk; ^tqdeB.

^ydQol. ylbaf'

hNi

Piel.Impv.

~ydWp. Qal.Pf. long for

「戒め dWp.」: 詩篇だけに見られる詩的用語。主から委託された事柄か。

# 説教

33 - 40 節は「ヘーh 詩篇」と言い、各節の冒頭の言葉は h で始まる言葉がズラッと並びます。

特にこの段落の特徴は、各節の文が「命令形の動詞」で始まり、

特に 33 - 39 節までは「～させる」という表現を意味する「使役形（<sup>ヒフィル</sup>Hiphil形）」の動詞で始まっているという点です。

もともとこの詩篇 119 篇全体が、

最初の段落は<sup>アレフ</sup>a、次は<sup>ベツト</sup>b（英語で言うアルファベット）という具合に

日本で言うと「いろは歌」のような言葉遊びで作られたものなので、この「<sup>ヘー</sup>hの段落」に於いても、

詩人が単語の冒頭に「h」のつく「使役形（<sup>ヒフィル</sup>Hiphil形）」の動詞をズラッと並べたとしてもそれはそれで不思議ではありません。その方が詩を作る方も簡単であり、単純であり、わかりやすくもあります。

でも、単にそれだけではなく、

そこにはもっとさらに強い詩人の意図があったということを読み取りたいと思います。

すなわち、詩人は、この h の段落を詠むにあたって、

h で始まる「使役形（<sup>ヒフィル</sup>Hiphil形）」の持つ言葉の特徴を生かしながら、

極めて単純に、わかりやすく、しかも率直に、素朴に、そして力強く、

加えて格調高く、美しく、自らの信仰を神さまに告白している、ということなのでした。

ですから、この h の段落をヘブル語原文で読み聞かす時、

その内容は、素朴で、率直で、ヘブル語の持つ言葉の特徴をうまく生かした、

美しい、そして力強く神さまの恵みをうたう詩として、読まれ、味わわれたことでありましょう。

詩人が次々に並べ立てる「使役形（<sup>ヒフィル</sup>Hiphil形）」の動詞は、日本語訳で追っていくと次の通りです。

「教えてください」（33）、

「悟りを与えてください」（34）、

「踏み行かせてください」（35）、

「傾かせ」（36）、

「そらせ」（37）、

「果たし」（38）、

「取り去ってください」（39）

もうちょっと詳しく言うと、次のようになります。

「（あなたのおきてを）教えてください」、

「悟りを与えてください」、

「（あなたの仰せの道を）踏み行かせてください」、

「（あなたのさとしに）傾かせ（てください）」、

「（目を）そらせ（てください）」、

「（あなたのことばを）果たし（てください）」、

「（そしりを）取り去ってください。」

これらは勿論、神のことばに関して詩人が告白している内容ですので、神のことばということをおおよそ次のように流れになります。

まずは、神さまのおきてを、「教えてください」と言います。

### 33. 主よ。

**あなたのおきての道を私に教えてください。**

**そうすれば、私はそれを終わりまで守りましょう。**

否、教えるだけではなく、その教えられたみことばを「悟らせて（理解させて）ください」と続けます。

### 34. 私に悟りを与えてください。

**私はあなたのみおしえを守り、心を尽くしてそれを守ります。**

そして、ただ自分の頭で理解できて終わり、ということではなくて、

その「仰せの道（十戒の命令）を踏み行かせてください」と言うのです。

### 35. 私に、あなたの仰せの道を踏み行かせてください。

**私はその道を喜んでいきますから。**

そのためには、

すなわち「神さまのお命じになった道」をまっしぐらに「踏み行く」ためには、

神さまの道から逸れないように、

詩人の心を、自己中心の利得を求める方向にではなくて、「あなたのさとし（十戒）」の方向に向けてくださいと祈ります。

### 36. 私の心をあなたのさとしに傾かせ、不正な利得に傾かないようにしてください。

「不正な利得」とは、

文字通り「不当な、不正な利益」のことであり、

「（自分さえよけりゃいいと言うような）利己的な利益」のことであり、

あるいは、場合によっては、「強奪、略奪といった暴力によって得た強引な利益」を意味します。

いずれにせよ、人間が、自己中心に、自分の欲によって、ただ当て処もなくブラブラと生きることを意味します。

人間は、神のみこころを行うことがなければ、自分の欲を中心に生きるしかありません。

使徒パウロが言うように、「自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い」神の怒りを受けるべき者でした。

自分の欲のままに生きるということは、裏を返せば、自分以外の人間はどうでもいいと言うことです。

自分以外の人間は生きようが死のうがどうでもいい、死んだってかまいません、

それで、使徒ヤコブの言葉を借りて言えば「あなたがたは、欲しがっても自分のものにならないと人殺しをするのです。」

人間の争い、人類の歴史上絶えることのない「戦争」も含めて、それは「あなたがたの体の中で戦う欲望が原因だ」と言うのです。

日本の第二次大戦もそうです。

その侵略戦争の本質は、要するに民族エゴです。

それを助長し、増強するのが、天皇崇拜、神社参拝、天照信仰です。

（「これは天皇の思し召しだ、天照大神の大御心だ」と言って）、天皇、天照大神、大日本帝国のためなら何をやってもいい、

他国を侵略し、略奪し、殺しても、それが聖戦のいけにえとなる、これが戦時中の神社参拝強制の本質であり、靖国思想の本質です。

それは要するに民族エゴなのです。

自分の民族だけ良けりゃそれでいいのです。

人を殺しても関係ありません。

自分がやることなすことは、ことごとく聖戦ですから、

神聖な行為ですから、罪を問われない、誰にも裁かれない、絶対的な行為なのです。

みなさん、誰にも裁かれないというのは、一見良いように見えますが、実は恐ろしいことです。

なぜなら、裁かれなければ、人間はますます自分中心になっていくからです。

そして、そうなると、破滅に向かっていきます。

そうして、最後はとうとう滅びてしまうのです。

だから、自分中心に生きてこの世界の支配者になるというのは、実は妄想だったのです。

騙されたのです。

悪魔に取り憑かれ、偶像に惑わされていただけなのです。

金や名誉や武力や色恋ごとが自分を幸せにしてくれるものだと思っていたけれど、実はそうではありませんでした。

それらは神ではないからです。

それらは実体があるようで、実は存在しないもの、「偶像」だったのです。

「偶像」は英語で「idol」と言います。

「アイドル歌手」の「アイドル」と同じです。

「アイドル」はみんなそれなりに自分なりに役作りをして歌を歌って人々に夢を売るのです。

実際はそうじゃないのに、可愛く見せたり、男たちに媚を売ったりして、人気を得て、金を稼ぐ、そういう世界です。

実際のアイドル歌手の「オーディション」をやりましたが、

審査員が「どんなに可愛くても男に媚を売れないような奴はアイドルになれない、思いっきり媚を売れ！」とハッパかけてました。

要するに、売るためには、実際の自分をありのままに出すんじゃなくて、思いっきり演技して「偶像」になりきれというわけです。

それを聞いて、ああ、なるほど、アイドルも大変だなと思いました。

それで、「偶像」に惑わされて道を踏み外さないように詩人は祈ります。

### 37. むなしいものを見ないように私の目をそらせ、あなたの道に私を生かしてください。

この「空しいもの」というのが、「空しい、偽の、無価値な、無意味な」という意味です。

実体が、実は無いにもかかわらず、あたかもあるかのように存在している、そして人々を惑わしている「偶像」のことです。

たとえば、お金だの、名誉だの、色恋ごとだの、

あるいは、商売繁盛、学業成就、無病息災、立身出世といった類の、この世の御利益のことと言えるでしょう。

そのような偶像に惑わされることなく、

一見良さそうに見えても実は価値のない空しいこの世の偶像から目を背けて、

詩人は「**あなたの道に私を生かしてください。**」と神さまの道を生きていくことを得させてくださいと神さまに祈りました。

なかなか実を結ばなくとも、一見地味でパツとしなくても、

しかし一步一步着実に、地道に、神さまの道を踏み行かせてくださいと言うのです。

そして、さらには、

幸いにせよ災いにせよ、

あるいは約束にせよ呪いにせよ、

神さまが日々自分にお語りくださるみことばをその通りこの地に実現して下さって、

「ああ、本当に神さまは生きておられる、神のことばは真実だ」と、

生ける神のみわざであるさばきを詩人がその身にいつもリアルに体験して、

詩人が神さまを「恐れ」て神さまの道を歩むことができるように、と祈ります。

### 38. あなたのことばを、あなたのしもべに果たし、あなたを恐れるようにしてください。

先にも述べましたが、神さまのさばきがなければ、私たちはますます自分中心になって生きていきます。

天地を造られた神さまが神ではなく、自分が神となってしまいます。

人の意見も聞かない、何でも自分中心に解釈し、自分中心に生きて、そして最後は滅びてしまいます。

だから、神さまのさばきは大切なのです。

神さまのさばきは私たちを救います。

神さまのさばきは私たちを目覚めさせて、愚かさから、罪から、救うのです。

それで、詩人は祈るのです。

**あなたのことばを、あなたのしもべに果たし、あなたを恐れるようにしてください。**

しかし、そう祈りながらも、また同時に、

自分が耐えることのできないような

あまりに重過ぎる神さまの「そしり（非難）」によって見捨てられるようなことは、どうか容赦してくださいとも願うのです。

### **39 . 私<sup>が</sup>恐れているそしりを取り去ってください。**

**あなたのさばきはすぐれて良いからです。**

「そしり」と訳される言葉は「非難、中傷、侮辱、不名誉、恥、嘲り、軽蔑」の意味です。

例えば、「不妊の」不名誉、「夫を失ってやもめとなった」不名誉、「飢え、病」による不名誉などの場合に使われます。

つまり、神さまが自分を懲らしめるために負わせる災い、さばきを意味すると考えられます。

要するに、神さまの下されるさばきによって自分の歩みが正されて神の道を歩み行くことができるのですが、

しかし、その神さまの懲らしめの鞭があまりに重ければ耐えることができないので、自分が耐えられない重荷は負わせないと言うのです。

以上が詩人の祈りです。

すでに述べましたが、

これらの詩人の祈りはすべて

「～させる」を意味する「使役形（<sup>ヒフィル</sup>Hiphil形）」の動詞で表現されています。

すなわち、詩人はこれら自分の願いがすべて神さまに由来すると信じていたのです。

神さまがご自身のおきてを「教えてくださいさる」、

教えてくださいさるのみならず、それを「理解させてくださる」、

頭で理解するのみならず、その道を「踏み行かせてくださる」、

具体的には、詩人の心を神の戒めに「傾かせてくださる」、

空しい偶像から目を「そらさせてくださる」、

さらには、詩人が神を恐れて生きるよう、

語られたご自身のみことばを「成就して」、

さらには自分が負いきれぬ重荷を負わせるようなことはなさない、というのです。

それが神さまだ、と詩人は告白するのです。

考えてみれば、これら一連のことは、実は私たちの信仰生活の全体像と言えます。

そして、その全体を神さまがすべて担ってくださっていると詩人は言います。

これらすべて詩人に起こることは、神さまが「そうさせて」起こることなのです。

神さまは、詩人にみことばを「語り、悟らせ、行わせ」てくださいます。

詩人がみことばを

「聞き、理解し、それを行う」ために、

神さまは生きて働いて、

「語り、悟らせ、語ったとおりにみことばを実現し、

正しいさばきをなし、恐れさせ、

また詩人の信仰が萎えてしまわないよう手加減して」、そうやって詩人に信仰の息吹を吹き込み続けておられるのです。

このような祈りを私たちも祈るべきではないでしょうか。

私たちは、自分の商売がうまくいくように祈ります。

夫が出世するよう祈ります。

自分と家族の健康が守られるよう祈ります。

息子がよく勉強できるように祈ります。

あるいは良いところに就職できるよう祈ります。

自分の恋が成就するよう祈ります。～特に、明後日はバレンタインデーですから。

でも、この詩人は、そのようないわゆる御利益祈願、加持祈祷の類は一切祈りません。

彼が祈っているのは、

要するに、神さまの道を教えてください、

それを理解させてください、

そして、それを実行させてください、

高慢にならないよう打ち砕いて、あるいは容赦しながら、

そうやって真に神さまを畏れつつ喜んで神さまの道を歩ませてくださいというのです。

後にイエスさまは、これを受けてか、

「こう祈りなさい.....

我らの日曜の糧を今日も与えたまえ。

我らの罪を赦したまえ。

我らを試みに遭わせず、悪より救い出したまえ。」

これが主の祈りです。

このように、私たちも祈るべきではないでしょうか。

あの御利益、この御利益と祈る前に、

自分が正しく主の道を歩んでいくことができるように、祈るべきではないでしょうか。

あるいは、人のために何をとりなし祈るべきでしょうか。

究極的には、やはりその人も主の道を歩んでいくように、それを祈るべきではないでしょうか。

結論として詩人は告白します。

「見てください！（これこの通り）私はあなたの戒めを慕っています。あなたの義のうちに私を生かしてください。」

ここに集うみなさんひとりひとりも、

この詩人のように「主の道を生きていく」ことを真剣に神さまに祈り求めて、

その答をいただき、神さまを恐れつつ、喜んで主の道を生かされていかれることを、主の御名により心から祈ります。

a 家・ものなどを **保存する**

:preserve historical sites (for future generations) (後世の人々のために史跡を保存する)

b 性質・状態を **維持する、保つ**

:preserve one's health [looks] 健康[容貌(ようぼう)]を保つ

/preserve one's calm 冷静さを保つ

/preserve order [world peace] 秩序[世界平和]を保つ

へー (33 - 40)

この部分の 教えて 悟りを与えて 踏み行かせて 傾かせ 目をそらせ 果たし 取り去って 等の表現は使役形である。信仰生活における主の主導権を認識し、教えと導きを求める祈りである

33 節の 終わりまで守りましょう が鍵となる。 終わりまで はヤコブの名と関係がある言葉で、112 節でも使われている。19:11 では、「報いは大きい」と訳されている。「その後に従うことによって報いを得られる」という意味が込められている。主からの報いを得るように(ピリ3:14)、しもべは主に従いたいと願う。その導きを求める祈りが34-40節であり、前述のように使役形が用いられている(ヘブ10:35-39)

33-40 節 つづり字へーの段落

33,34 節。神の「おきて」は、耳で聞くだけでは意味がない。実行が求められる(参照マタイ7:24-27)。ルカ11:28の、「幸いなのは、神のことばを聞いてそれを守る人たちです」というイエスの教えも参照せよ。詩篇119:36,37に見られるのと同様の敬虔につ

いての教えは、Iヨハネ 2:16-17 にもある。詩稿 119:37 の「むなしいもの」とは、偶像崇拜、虚栄、この世のはかない栄華、神を離れた野望などである（参照 24:4、31:6）。119:37 の「道」は、多くの写本において複数形（少数の写本では「みことば」）。38 節の神を「恐れる」態度は、信仰的知恵の土台である（箴言 1:7）。詩篇 119:39 において「そしり」の除去が期待される。人の中傷にはある程度耐えられるが（42）、神からの非難には逃れるすべがない。40 節に神の「戒め」は慕われるべきものであると教えらる。それは時として一時的な失望を介して、救いに導いて行く（参照 92, 93）。